仁保村志

仁保村役場

仁保村志

仁保村役場

はしがき

國に國史あり地誌あり、家に家乘あり系譜あり、村に村志なかるべからず、然れども修志のこと寔に容易の業にあらず、是を以て仰望久しきに及べども實現の期輒く到らざりし所以なるべし。

我が仁保村は、吾等の祖先が幾十百代に亘りて經營し努力し盡瘁し、或は血を以て擁護し發達せしめたる村なり、美なるかな山海、廣島灣頭を包羅し內海を睥睨し、陸に海に形勢の利なる他に匹儔なし、全國一萬二千の町村中古來屈指の大村として生氣あり異彩ありしは我が村也、今茲昭和四年四月一日を以て他の六箇町村と共に廣島市に編入せらるゝ事となれり、抑々輓近都市の發達は頗る顯著なる現象にして接續町村を合併して大都市の經營せらるゝは所謂世界の大勢なり、我が村が時代の趨勢に順應する事を誤ら

ざるのみならず、嶄然他に率先して合併を決定し新に生々躍進の盛運を招致せんとするを衷心慶賀すると共に消えゆくなつかしの村を回顧する時漫ろに思慕愛情の情を禁ずる能はざる也。

村長岩澤熊助氏爰に見る所あり、この劃時代的記念として將た思ひ出深き仁保村に對する哀史として手向草として村志編纂を決意せられ、前月予に託するに重任を以てせらる、予素より其器にあらざれども事や頗る焦眉の急に迫り、逡巡日を曠しくすべき時にあらざれば微力自ら揣らずして之に應じ百難を排し「夜以繼日」匆忙の中に稿を了へたり、語に曰く急趨に善跡なし、と、杜撰鹵莽の譏は或はこれあらん、蓋し亦已むを得ざる所なり。

縱に古今を貫き横に現狀を展開して我が村を達觀し得ば本志の目的は足る、而して村勢各種統計の類は主として村役場の表簿により之を覔めて稍々要求を充たすに足るもの

ありしも、史跡に至りては殆んど據るべき資料なく八方搜索して殘簡零墨も之を合綴して尙纔に急迫を鶻突し了れる憾あるは省みて忸怩たらざるを得ざる也。

本志引用の舊記などは原文の儘之を揭載せしが難解の語句には往々註釋を加へ漢詩漢文には訓點を施したり、是れ何人にも理解を容易ならしめんがためのみ。

異說種々ありて眞僞を判じ難き事項、又は同一の事項も彼此比較して一層明瞭すべき事は繁を厭はず、併せ記し置きたり。

年代を明にする爲め今年より溯りて計算するときは、理解を容易ならしむる便あれども、そは年々移動するの缺點あり、因りて年號の下に括弧を附け皇紀を簡略に揭げ又は天皇御諡號を記したり、故に本年より計算する時は皇紀「二五八九」と對照せらるべし。

宇品島は明治三十七年九月廣島市に編入せられたり、今の宇品町の地も築港以前は我が村の屬たりしなり、東新開町も初名は仁保島東新開といへり、皆實町も亦然り、右は

何れも地理歴史上我が村と不可分の關係あるを以て、これに關して相當記載し置くは必要なる事と信ず。

本誌編纂に際し村長以下吏員諸氏が公務多端の際にも拘はらず、幾多緊要なる統計表を作製せられたるは素より、村内各方面より種々貴重なる資料を提供せられたると、元安藝郡長天野雨石氏の指導に預りしこと、及び淺野高師兩圖書館より受けし恩惠等に對し、茲に銘記して感謝の意を表す。

昭和四年三月三十一日城山に沈む夕陽を眺めつゝ

大澤篤太郎識

目次

地圖

仁保村全圖、同上主要部明細圖、毛利氏以前の廣島と仁保島の圖

寫眞

仁保村役場と岩澤村長、邇保姫神社、大原神社

はしがき

第一章　總說……一

位置廣袤　境界、村の組成及び村役場の位置、地勢、面積、村の名稱、仁保島の意味及ぶ其他の島々につきて起源沿革並に行政、附考古資料

第二章　土地及び戸數人口……三

土地、官有地、民有々租地、民有免租地、公有水面使用面積、民有地所有區分、部落別土地反別表、私有地部落別調査、戸數及び人口、戸數、人口、職業別戸口、出生、死亡、死産、婚姻、離婚、戸籍及寄留、公文書、部落別戸數調

第三章　村の政治……一九

管理沿革、村役場の位置、庄屋戸長村長及助役、收入役、筆生、書記、會議、選擧、町村制實施以來の村會議員一覽、現在の名譽職

第四章　財政及び部落別擔税力等……三三

歳出累年統計表、昭和三年度歳入出豫算、村内部落別擔税力調査表、部落別家屋税を課すべき家屋種類と其の坪數

第五章　敬神思想と神社……四一
　瀰保姫神社、大原神社、村社祭神御系統表、村内無格社一覽、疱瘡神社の由緒

第六章　宗教と寺院……五二
　西福寺、善福寺、本浦觀音寺、大河地藏尊、宇品觀音院、現住人口宗教別人員

第七章　教育……五九
　村内教育の發達史、各小學校沿革の大要、校地校舍、學級數兒童數及卒業生、教員資格勤續及待遇、補習學校狀況、青年訓練所狀況、圖書館、教育費

第八章　篤行者と義人……六八
　孝子節婦、篤志者、人命救助者、義人十郎兵衞

第九章　交通と通信……七八
　道路、車輛船舶、通信機關、村内郵便局調、向洋驛、宇品港、古の繫船場、岨礁

第十章　産業……八五
　村内各種生産物調
　農業總説
　肥料消費額、農事奬勵機關、園藝農産物作付段別及收穫高、果實收穫高果樹園反別、金井農園
　主なる工産物と工場
　水産製造物、工場、大工場の創設、日本製鋼所廣島工場、陸軍運輸部金輪工場
　水産
　水産養殖・漁獲物、同集散狀況、免許及許可漁業數、牡蠣、蠣屋船と大阪、海苔、村民の遠洋漁業、大河漁業組合狀況
　家禽其他
　金融機關
　産業の變遷興廢
　魚簗、蠣灰、鰯、灘木綿、陶器製造業、養蠶業の勃興、麥稈眞田業、製壜業、石鹼工場、可部銀行仁保支店、向堀信用組合

第十一章　村民の波外發展……一二六
　我國移民史、村民の海外渡航人員及び渡航先

第十二章　兵事……一三一
　現役豫後備補充兵、壯丁體格檢査成績、徵兵終結處分者及未濟者、簡閲點呼人員、遺族癈兵、軍人軍屬戰病死者一覽表

第十三章　博愛及び慈善……一三五
　日本赤十字社員及び愛國婦人會員

第十四章　衞生……一三六
　醫師其他、種痘成績

第十五章　古戰場と仁保島合戰……一三七
　城山古壘、仁保島落城、仁保島合戰之事

第十六章　古跡名勝古墳名木等……一三六
城山古壘及び山古屋鋪跡、小赤壁、赤田山、月見山、侍石、黄櫨山、東の觀音樣、船置場、城の山、双松園、八勝莊、社倉、婆が寢所、湯濯川、三浦兵庫墓　名木銀杏
第十七章　名勝と藝文……一四〇
七浦の歌、仁保晨霞、七曲灣頭、仁保島歸途上吟、三浦氏古城墟、日宇那即時、小富士晴雪、箕島嶮嶺、氏名歸帆、遊宇治奈島、舟發宇品二首、廣陵雜詩、磯廼火
第十八章　海水浴場と養生風呂……一四五
辨天島、似島、大河の潮風呂、潮濱館、日宇那丹那の石風呂
第十九章　風俗民謠……一四八
寛政文化頃の貝拾ひ、尚洋の大左義長、本浦淵崎の大紙鳶揚げ、十七夜の燈明流し、七夕祭、盆踊り、大河踊り、麥打ち歌、舟歌、麥打歌舟歌に共用のもの、海苔採歌
第二十章　村内官公衙法人建築物……一五四
第二十一章　村内各種團體……一五四
第二十二章　合併顚末……一五七
合併問題の經過、合併委員、仁保村編入に關する覺書
第一十三章　一市七ヶ町村勢力比較……一六五
面積及び戸數人口、土地反別、職業、豫算調、小學校調
第二十四章　仁保村年表……一六九